



ふじた

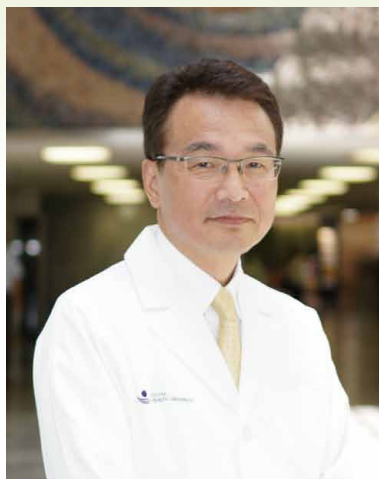
新年のご挨拶

JCI認定取得に向けた
活動をスタートしました！

work visit
Information



F U J I T A H E A L T H U N I V E R S I T Y H O S P I T A L



新年のご挨拶

藤田保健衛生大学病院 病院長
湯澤 由紀夫



新年あけましておめでとうございます。

新年を迎え、藤田保健衛生大学病院は、皆様にさらに安全で質の高い医療をご提供できますように職員一同心を新たにしております。

工事等の影響で病院に受診いただきます皆様方には長くご不便をおかけしておりますが、病院のインフラ整備は順調に進んでおり、皆様にご利用いただきやすい環境が徐々に整ってまいりました。平成27年度にオープンしましたA棟に続きまして、平成28年1月には日本でも有数の機能を持つ検査棟が完成し、採血等の処理能力も飛躍的に向上し、診察の待ち時間短縮を図っております。平成29年末には新B棟が完成予定ですので、ほぼすべての外来部門・中央診療部門・病棟の再整備の完成が目のところまでできました。これからも引き続き、皆様に明るく快適な療養環境をご提供していきたいと考えております。

また病院の機能に関しましては、平成28年4月には教育病院としての卒後臨床研修評価認証に続き、6月には日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG: Ver.1.1）の認証を高評価で終了しました。また、国際水準の安全な医療を提供するための国際認証（Joint Commission International: JCI）受審のための準備を開始しております。

平成28年4月から、「病院見学ツアー」を開始いたしました。地域の皆様に、大学病院で行っております医療の現場を体験いただき、より理解を深めていただければと思います。おかげ様でご参加いただいた皆様からご好評をいただいております、今後も継続していきたいと考えております。

藤田保健衛生大学病院は、これからも職員一丸となって、「安全で質の高い最先端の医療」と共に「地域に根差した医療」を提供し、地域・社会に貢献したいと考えております。

皆様の益々のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



JCI 認定取得に向けた活動をスタートしました！

藤田保健衛生大学病院は「最高水準の医療を提供し、社会に貢献する」ことを常に心掛け、医療の質と患者さまの安全を向上させる活動に取り組んでおります。

これらの私たちの活動が国内だけでなく国際基準としても満たされていることを明示すべく、このたび国際的な医療機能評価機関であるジョイントコミッションインターナショナル（Joint Commission International: JCI）の認定取得に向けた活動を開始いたしました。

平成28年10月1日より湯澤由紀夫病院長をリーダーとしたプロジェクトチームを発足し、2年後の認定取得に向け、職員一丸となって取り組んでまいります。



JCI (Joint Commission International) とは

JCIとは、国際非営利団体 Joint Commission Internationalの略称で、1951年に米国にて医療機関を対象とした第三者評価機構として結成され、その国際部門として1998年に設立された医療機能評価機構です。JCIの活動は「医療の質と患者安全の継続的な改善」を目的としており、JCIの審査は、世界中で最も厳しいと言われています。その認定を取得することで国際基準の医療の質を担保し、安全な医療を提供している施設として評価されます。また、認定を取得した後は3年毎に更新審査が行われ、継続的な改善活動が求められています。

世界90カ国890以上の医療施設がJCI認定を取得し、日本では2016年12月現在で19施設が認定を受けています。

JCI 認定取得の目的 ～ We are ONE ! ～

「最高水準の医療を提供し、社会に貢献する。」

- すべては患者さまのために、職員が一丸となり、全員参加で医療の質と患者さまの安全を継続的に向上させる取り組みを行います。
- 世界で最も厳しい審査の評価を受けることにより、患者さまやご家族の方々へ、これまで以上に安心・安全で質の高い医療を提供し続けることにより、社会への貢献を目指します。
- 進化し続ける藤田保健衛生大学病院にご期待ください！

[JCI 国際基準]

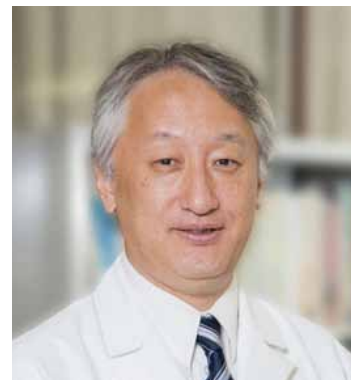
	Patient-Centered Standards	患者中心の診療基準
IPSG	International Patient Safety Goals	患者安全に関する国際基準
ACC	Access to Care and Continuity of Care	ケアへのアクセスと一貫性のある診療方針
PFR	Patient and Family Rights	患者と家族の権利
AOP	Assessment of Patient	患者の評価 (アセスメント)
COP	Care of Patient	患者のケア
ASC	Anesthesia and Surgical Care	麻酔・外科的治療
MMU	Medication Management and Use	薬剤管理と処方プロセス
PFE	Patient and Family Education	患者と家族への教育

	Health care Organization Management Standards	病院の運営管理の基準
QPS	Quality Improvement and Patient Safety	医療の質改善と患者安全性の確保
PCI	Prevention and Control of Infections	感染制御
GLD	Governance, Leadership, and Direction	ガバナンス、リーダーシップおよび組織管理
FMS	Facility Management and Safety	施設管理と医療の安全
SQE	Staff Qualifications and Education	職員の資格と教育研修
MOI	Management of Information	情報の管理
	Academic Medical Center Hospital Standards	大学病院 (特定機能病院) としての基準
MPE	Medical Professional Education	医学専門教育
HRP	Human Subjects Research Programs	人を対象とした臨床研究プログラム (治験を含む)



脳卒中科 「脳卒中科」とはどういう診療科ですか？

脳の血管が破れたりつまったりする脳卒中は、日本人の死亡原因の第4位、要介護となる原因の第1位を占めています。脳の血管が破れる病気には脳出血、くも膜下出血、脳の血管がつまる病気には脳梗塞や一過性脳虚血発作があります。これらの多くは日頃の生活習慣や成人病と深くかかわっており、高血圧、糖尿病、高脂血症や喫煙、肥満、運動不足などはこれらの原因となります。ですから、脳卒中にならないために、あるいは再発しないためには、これらの生活習慣病に対する内科治療が重要です。しかし、万一脳卒中になってしまったら、できる限り早く専門病院に行き、必要な場合には、内科治療に加えて開頭による外科治療やカテーテルを用いた血管内治療をうけることにより、症状が改善することがあります。このような内科治療、外科治療、血管内治療はいくつかの診療科で行っていますが、最近はこれらを包括的に担当する脳卒中の専門診療科が大切であることが知られるようになりました。脳卒中科はこのようなニーズに応えるために2016年4月に開設された、国内ではまだ数少ない診療科です。



脳卒中科 教授
中原 一郎

プロフィール

昭和58年東京医科歯科大学医学部卒業、平成2年京都大学大学院医学研究科修了。日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、日本脳神経血管内治療学会の専門医。脳卒中診療、脳血管病の治療が専門。脳卒中の内科治療に加えて、開頭手術とカテーテル治療の両方を行うハイブリッド脳外科医。

PICK UP くも膜下出血と脳動脈瘤

くも膜下出血は脳の血管が破れるタイプの脳卒中のひとつです。脳の血管に動脈瘤という「こぶ」ができ、その壁が破れて脳のすき間に出血を起こします。ほとんどの場合、破裂の前兆がなく、ある日突然、頭に雷が落ちたような激しい頭痛がおき、多くの場合、意識を失って倒れてしまいます。救急車で脳神経外科がある最寄りの病院に運ばれ、治療が行われますが、半数近くのかたは命を落とし、命が助かったかたの半数ではなんらかの後遺症が残ってしまいます。

発症原因は？

くも膜下出血は人口10万人あたり20人前後で発症し、日本人は欧米人と比較して頻度が高いことが判っています。原因となる脳動脈瘤がなぜできるかは解明されていません。脳ドックなどのデータからは100人あたり数人で脳動脈瘤が見つかるとも言われています。しかし、すべての瘤(こぶ)が破裂するわけではなく、平均すると5ミリくらいの脳動脈瘤の年間破裂率は1%と言われています。サイズが大きくなったり、形が不整であるとより破裂しやすくなります。

治療について

脳動脈瘤が破裂してしまったら、ふたたび破裂しないように大至急で治療を行います。破裂しないうちに判明した場合、小さいうちは定期検査が基本です。大きさが5ミリに近づいたり変形がみられるようになれば、くも膜下出血を防ぐために予防的な治療をおすすめします。治療方法には開頭手術によって動脈瘤のねもとにチタン製のクリップをかけて治す方法と(図1)、カテーテルという極細のチューブを足の付け根などから誘導して、これを通して動脈瘤のなかをプラチナ製のコイルという糸くずのようなものでつめる方法があります(図2)。時にはステントという血管の内ばりを併用します(図3)。どちらがよいかは個々の動脈瘤の大きさや場所、形によって様々で、一概にどちらが安全、確実とは言えません。専門家の説明をよく聞いていただき、治療法の選択を行っていただきます。大きな動脈瘤の一部は、フローダイバーターという最新型のステントを用いて治すことができ、当科は国内22施設限定の治療施設のひとつに認定されています。



図1

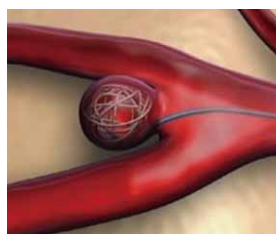


図2



図3

「患者さま向けがんセミナー」

会場：藤田保健衛生大学病院外来棟4階403

2/4(土)	11:00~12:00	肺がんの外科的治療と呼吸リハビリ
3/22(水)	11:00~12:00	肺がんの治療と疼痛コントロール・がんの痛みとの付き合い～その痛み我慢しないでください～

詳細については、院内掲示ポスターにてご確認ください

FUJITA 世界糖尿病デーフェスティバルを開催



11月14日の「世界糖尿病デー」に合わせ、本院でも平成28年11月12日(土)に「FUJITA 世界糖尿病デーフェスティバル」を初めて開催しました。「あなたの知らない糖尿病の世界」をテーマに、糖尿病の正しい知識や発症予防の啓発を目的とした企画です。

体験コーナーでは、歩行のエネルギー消費量算出、血糖測定、メタボチェックアンケート、腎症や網膜症の解説、食事や薬のクイズなど糖尿病に関連する事を楽しく学んでいただきました。低糖質食品のサンプルやおやつも好評でした。

講演会では、内分泌・代謝内科教授の鈴木敦詞先生が糖尿病と健康維持についてユーモアを交えてお話ししました。患者様2名の体験談では、1型糖尿病の方からは合併症と病気の受け入れとその後の膵腎同時移植について、2型糖尿病の方からは、肺がんと2型糖尿病とつきあっている様子をお話しいただきました。

当日は予想以上に多くの方にお越しいただき大盛況でした。来年度以降、さらに皆様楽しんでいただけるよう工夫をしていきたいと思います。



クリスマスチャリティーコンサートを開催

平成28年12月10日(土)に、1階ロビー「いこいの広場」にて、クリスマスチャリティーコンサートを開催しました。今年も実力派ジャズ・シンガーのケン・ヴァルデイスさんと人気ミュージック・ナビゲーターのジェイムス・ヘイブンスさんらをお迎えし、クリスマスソングを披露していただきました。また、子供たちはジェイムスさんふんするサンタクロースよりお菓子のプレゼントをもらいました。

今年で4回目となるクリスマスチャリティーコンサートですが、当日集まったチャリティー募金(フジタサンタ募金)は、中日新聞社会事業団の「社会福祉事業資金」へ寄付いたします。

募金にご協力いただきました皆様に、心よりお礼申し上げます。

